

FY 2024 Final Report

Project Name: カンボジアにおける保健教員養成事業

Organization Name: 国立大学法人東京学芸大学

2024 年度のプロジェクトの活動レポート

要約

2024 年度は、以下の活動を行った。

1. 小学校課程用の教科書の改訂作業と学校保健研修の継続、授業研究の実施

小学校課程の教科書の改訂作業は、カンボジアの教官がペアを組み 1 章から 5 章、8 章、10 章、12 章を検討し、改訂のための候補をピックアップした。今後、検討し、改訂に反映するか否かを決めていく。学校保健研修は、4 回（第 17 回から第 20 回）をカンボジアで、1 回を日本で行った。

第 18 回の学校保健研修で、授業研究を BTEC と PTEC で実施した。

2. 学校保健コース以外の中学校課程における学校保健の教科書制作

中学校教員養成課程で学校保健コース以外の学生用の教科書（1 単位分）を制作し、学生に配布した。その教科書をもとに、授業が行われた。

3. 中学校課程の 1 年目に予定している 11 科目の講義用の教科書（日本語版）の制作

教科書制作のための専門家協力者の会議を毎月行ってきた。

しかし、科目の単位の計算が大きく変更されたため、これまでの作業を保留し、再構成する必要が生じた。

すでに、小児保健、小児の疾病、学校安全、人体解剖生理学、微生物との共生と免疫、など日本語で草稿ができていたが、検討しなおすことになった。

4. 学校保健用語集の制作

小学校教員養成課程の教科書の索引をもとに、用語の解説集を日本語で制作する作業を行った。2025 年度には、最終確認して、英語に翻訳し、クメール語版を製作する。

5. 学校保健の導入の効果に対する評価研究

TEC の卒業生を対象にした簡易なアンケートを行った。

2024 年度に入学した小学校教員養成課程の 1 年生を対象に学校保健の授業を行うことになり、事前のアンケート調査を実施した。2025 年度に事後調査も行う予定である。

6. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信

2025 年度の国際学会で成果を発表するために、International Union for Health Promotion and Education(IUHPE)と国際社会学会に演題を申し込み、受理された。発表は 2025 年度である。

特に IUHPE では、シンポジウムでカンボジア学校保健プロジェクトの取り組みを紹介する。

7. 日本における学校保健研修

第 3 回日本学校保健研修を 9 月 8 日から 15 日の期間に実施し、東京学芸大学のほか、小学校 1 校、中学校 2 校、中等学校 1 校を視察した。

8. 東京学芸大学、カンボジア TEC 間で学生の短期交流（スタディツアー）

2025 年 3 月 4 日から 13 日の期間、東京学芸大学の学生 9 名がカンボジアに渡航し、BTEC と PTEC の学生と交流し、それぞれの附属小学校で授業（運動教育、栄養教育）を行った。

9. HP や Newsletter による情報発信

東京学芸大学の HP にあるプロジェクトの HP (<https://shcc.u-gakugei.ac.jp/>) の更新を行った。

Newsletter を 17 号から 23 号まで発行した。

10. 国際学校保健セミナーの実施

3 回セミナーを開催した。講師は、松田徳子氏、永田莉奈氏、大路紘子氏である。

11. KIZUNA の学校保健事業のサポート

6 月 25 日から 6 月 28 日の期間、朝倉と増子で KIZUNA がコッコン州で行っている学校保健のモデル事業のモニタリングに参加した。

KIZUNA の第 4 回アップグレードトレーニングの 2 日目（12 月 24 日）に、朝倉が講義を行った。

上野が、KIZUNA の保健室マニュアル（草稿）を執筆した。

12. TEC の学校保健に関わる専門的な見地からのサポート

Health room の運営に関する講義を齋藤千景教授（埼玉大学）が TEC 教官の学校保健日本研修で行った。

13. 新しい教官の加入

PTEC と BTEC、それぞれの学長から推薦があり、3 名の教官を新しく SHCC のメンバーとして迎えた。

PTEC から 1 名、BTEC から 2 名である。

14. Social Emotional Competency Card Game の制作

教員の資質を考えさせるゲームとして、84 個の social emotional competency をデザインしたカードを制作した。Competency を英語とクメール語で併記した。2025 年度にカードを印刷し、配布する。

15. カンボジア国王と政府によるプロジェクトへの叙勲

3 月 3 日、カンボジアの教員養成大学における学校保健テキストの制作と学校保健研修の貢献がカンボジア政府によって認められ、SHCC を代表して朝倉と増子に勲章が授与された。

I. 本事業実施の背景と経緯

カンボジア学校保健ポリシー（2006）に、全ての教育機関において保健教育を導入することが明記された。小学校、中学校で保健教科を週 1 回教えることが求められている。しかし、これまでカンボジアの小学校、中学校では保健を教科として教えられておらず、どのようにして学校における包括的な保健教育を実施するか、だれが教えるのかなど教育体制の整備が大きな課題である。

そこで、プノンペンとバタンバン教員養成校が 4 年制の教員養成大学に昇格するにあたり、小学校課程には総合学校保健科目（学校保健）を開設し、中学校課程では学校保健コースが新設されることになった。ところが、教員養成大学では、学校保健を指導できる人材が不在であり、学校保健担当教官を育成する課題が残されていた。また、学校保健のカリキュラム、シラバス、及び講義に使用する教科書もできていなかった。

そのため本プロジェクトは、小学校課程の教員養成で用いるクメール語版の学校保健の教科書を作成し、2022 年 4 月 20 日より授業を開始できるように、教官に教科書の内容に即したトレーニングを行ってきた。2023 年 4 月からは、2023 年 3 月に教育省により正式に認定されたクメール語版学校保健教科書を使用して 2 クール目の授業が始まった。

中学校課程の学校保健コース設立に対しては、専門教科 25 科目、カリキュラムスタディ 7 科目からなるカリキュラムとそれぞれのシラバスを作成し、教科書の作成に向けて準備をしてきた。しかし、教官の負担と担当者不足より、TEC は 1 科目の単位を変更することを決定した。1 科目が 3 単位となったため、25 単位であると 8 科目しか開講できない。プロジェクトでは 10 科目を要請しており、3 単位の科目と 2 単位の科目に分けて、科目の構成を再検討する必要が生じた。

本プロジェクトが提案するシラバスと教科書ができ、それらが承認されれば、教員養成大学と教育省で入学定員や募集時期などが協議されることになっている。

また、TEC は、附属学校の保健の授業と保健室運営に指導的立場にあり、モデル校になるように連携していくことが教育省から強く要請されている。TEC の学生も附属学校で教育実習を行うため、理数教育のみでなく、保健も教科として、本プロジェクトにも TEC と附属の連携を視野に入れることを要請されている。

II. 本事業の目的

本事業は、大きく 4 つの目的がある。

本事業の第 1 の目的は、プノンペン教員養成大学（PTEC）とバタンバン教員養成大学（BTEC）において小学校と中学校の教員養成課程における学校保健のカリキュラム、シラバス、教科書を開発し、それらを用いて授

業等を担当できる教官の養成・訓練を行うことである。

保健の講義ができる教官の育成は重要な直接的課題であるが、大学の講義の第1の目的は学生の育成である。したがって、TECで学校保健の授業を受けた学生が、卒業後に赴任した学校で保健の授業を担当できるようになることである。さらに、モデルとなる保健の授業を小中学校で行えることが、第1の目的の延長上にある第2の目的となる。

また、用語の統一的理解を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を制作することも目的達成のための重要な事業の一つである。

KIZUNAが取り組んでいるコッコン州の中学校の現職教員を対象とした学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に対し、専門的な見地から助言する。

Ⅲ. 事業概要

日本財団の助成による「カンボジアにおける保健教員養成事業」は、東京学芸大学がカンボジア教育省との協定に基づき、教員養成大学（PTECとBTEC）の小学校課程の総合学校保健科目（学校保健）の開設と中学校課程学校保健コースの設立を支援するために、カリキュラム、シラバス、教科書の作成、講義を担当する教官のトレーニングを実施するプロジェクトである。その効果を評価するために、学生の健康意識調査、卒業生調査等を行う。

そのプロジェクトの一環として、用語の統一的理解を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を作成する。

また、KIZUNAと協力して現職教員に学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に取り組む。

以上の目的を実現するために有効な関連事業を立案して、日本財団、KIZUNAと連携して実施する。

Ⅳ. 2024年の事業目標

主な柱は以下のとおりである。これらの事業に付随して必要な関連事業を企画立案した。

- ① 小学校課程用の教科書の改訂作業と学校保健研修の継続
- ② 中学校課程の1年目に予定している12科目の講義用の教科書（日本語版）を制作し、順次英語に翻訳
- ③ 学校保健の導入の効果に対する評価研究（学生調査と教官インタビューの分析、卒業生のフォローアップなど）
- ④ 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信
- ⑤ 日本における学校保健研修（今年度は教官の半数を予定）
- ⑥ 東京学芸大学の学生のスタディツアー
- ⑦ HPやNewsletterの発行
- ⑧ 国際学校保健セミナーを継続し、カンボジアをはじめとした途上国の学校保健を学生と教員が共に学ぶ機会づくり
- ⑨ KIZUNAの学校保健事業を専門的な見地からサポート
- ⑩ TECの学校保健に関わる専門的な見地からのサポート（Health roomの運営、学校保健におけるTECの教官と附属学校教員の連携など）
- ⑪ TECへの昇格が予定されているカンダール州とコンボン・チャム州の教員養成校の実情調査、その他の州の教員養成校における学校保健の授業の実情調査

Ⅴ. 2024年の事業実績

1. 小学校課程用の教科書の改訂作業と学校保健研修の継続、授業研究の実施

第17回（5月27日から5月30日）と第18回（7月8日から7月11日）の学校保健研修を行った。

まず、シェムリアップの Tara Angkor Hotel で講義と演習を行った第17回研修の様子を報告する。

1日目は、午前中、朝倉から学校保健コース以外の一般の中学校課程の学生向けに制作している教科書のポイントの説明した（資料1）。午後は、Saomoline 先生が Trial lesson を行った。

1日目 Saomoline 先生による First Aid の Trial lesson



Trial lesson のロールプレイ

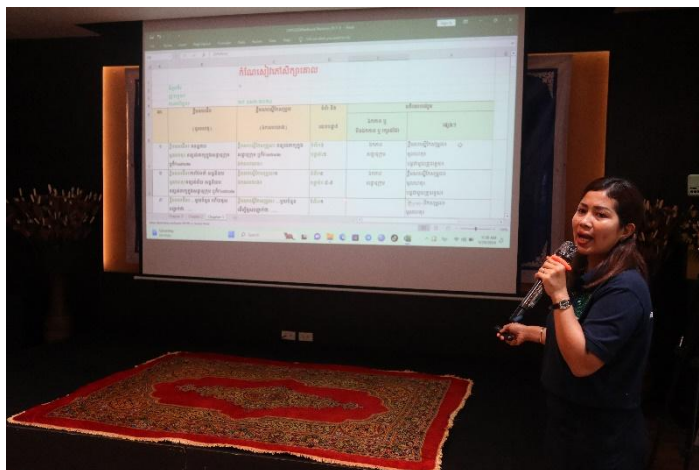


また、PTEC と BTEC の教官が附属学校で行った身体測定の結果の報告があり、全員でシェアした。

2日目に教科書の改訂に向けて問題点を抽出する作業を行った。これを基に今後改訂作業を進める。

2日目の午後、Bunmakara 先生が生活習慣と健康の Trial lesson を行った。また、「よい教員の資質(Social Emotional Competency)」カードゲームを試作しており、クメール語に翻訳して、カードゲームを試行した。カードゲームのクメール語翻訳は、PTEC のクメール語専門の教官と SHCC の教官2名で協議して、ブラッシュアップしている。

2日目の午前、小学校課程の教科書改訂のため、問題点をリストアップしている様子



2日目 Bunmakara 先生の Trial lesson の様子



2 日目の「よい教員の資質(Social Emotional Competency)」カードゲームの様子



3 日目に Prey Chrouk Primary School で Khim 先生を中心に学校安全の授業を小学生に行った。その後、授業に対する検討会も実施した。

3 日目の Prey Chrouk Primary School での学校安全の授業の様子



昨年度より保健教育の授業力を向上させるため、研究授業（レッスンスタディ）を取り入れた研修を行っている。第 18 回学校保健研修は、研究授業を中心とした研修である。7 月 9 日はプノンペン教員養成大学（PTEC）で研究授業を行った。授業者は Dr. San Sreyry で Chapter 7: Infectious Disease をとりあげた。7 月 10 日はバタンバン教員養成大学（BTEC）で行い、授業者は Ms. Sar Somnea で Chapter 8: Eye and dental health を取り上げた。

PTEC での Dr. San Sreyry の研究授業の様子と、その後の協議会の様子



Dr. San Sreyry の授業のビデオ記録は以下のフォルダーにある。

<https://drive.google.com/drive/folders/1xloSL7ssAG8UA8PfjZ5PRlhc-RD579oV>

BTEC の Ms. Sar Somnea の研究授業の様子とその後の協議会の様子



Ms. Sar Somnea の授業のビデオ記録は以下のフォルダーにある。

<https://drive.google.com/drive/folders/1qI6Aftomnj8dsk40rQaOO2WUskve89B>

また、それぞれの授業のリフレクションと研修全体の振り返りの要点は、以下のフォルダーにある。

https://drive.google.com/drive/folders/1QEmorip_CkdyDcZjOCugZ0t_aUIWKaeY

ちなみに、学校保健研修の内容については、ニュースレターの記事で取り上げている。第 17 回は 18 号、第 18 回は 20 号、第 19 回は 22 号、第 20 回は 23 号で取り上げている (<https://shcc.u-gakugei.ac.jp/newsletter/>)。

2. 学校保健コース以外の中学校課程における学校保健の教科書制作

中学校課程で学校保健コース以外の学生に対しても健康教育の講義を開設してほしいと TEC から要望があった。協議の結果、1 単位分の授業を開設することで合意し、その教科書の制作に取り組んだ。

1 単位分であるため、小学校課程の教科書を基に約半分のトピックスを選定し、中学校の生徒の健康課題に適した内容の章立てを工夫した。タイトルは以下のとおりである。各レッスンを 2 回の授業（50 分×2 回）で実施できるようコンパクトに作成した。

Lesson 1: What is health ? What is school health ? (1 章)

Lesson 2: How does your body work ? (2 章)

Lesson 3: Growth and development in childhood and adolescence (3 章)

Lesson 4: Sexual development and reproductive health in adolescence (4 章)

Lesson 5: Infectious disease and biological defense mechanisms (5 章)

Lesson 6: Lifestyle and health (6 章)

Lesson 7: Mental health (7 章)

Lesson 8: School safety and safety education (8 章)

8 章の英語版を完成させ、クメール語翻訳を行い、TEC の教官などに翻訳の確認作業を依頼している。表紙は、social compass に依頼済みで、11 月には暫定版の教科書を印刷・製本する予定である。タイトルは、Essentials of School Health For All とした。

なお、6 章から 8 章の教官へのポイントの解説は、日本研修で行った (資料 2)。

各章の英語版は、以下のフォルダーにある。

<https://drive.google.com/drive/folders/1tXZZpDrWCV27VsLz5NwyyFkAzIIMKLhx>

2025 年 1 月より BTEC と PTEC で新入生が入学してきたので、彼らを対象に制作した教科書を基に講義が行われた。配布された教科書を手に学生が喜ぶ姿が印象的である。詳しい記事は、ニュースレター 23 号に掲載されている (<https://shcc.u-gakugei.ac.jp/newsletter/>)。



BTEC の Veasna Mao 先生の授業風景
教科書を見ながら、学生の発表を聞いている。



PTEC の Pall Chamroen 先生と手に教科書を持って喜ぶ学生

教育省が主催する Education Congress 2024（テーマは Progress and Best Practice of School Health Policy）において、学校保健局の His Excellency Dr. Yung が Developing human capital towards Cambodia's Vision 2050 というタイトルの講演の中で、Progress and Excellence in the Implementation of the National Policy on Academic Health として、本プロジェクトが制作した教科書と成果を取り上げて報告してくれている。ベストプラクティスとして、本プロジェクトの事業を評価してもらえた。



3. 中学校課程の1年目に予定している11科目の講義用の教科書（日本語版）の制作

2024年度は、教科書制作のために、これまで1か月から2か月に1度の頻度で、打ち合わせ会議を設けて進捗を確認し、内容を協議してきた。執筆担当者は、青柳直子（茨城大学）、籠谷恵（杏林大学）、齋藤千景（埼玉大学）、出口奈緒子（静岡大学）、中村禎子（十文字学園女子大学）、物部博文（横浜国立大学）、朝倉隆司（東京学芸大学）である。

中学校課程の学校保健コースの単位数が30単位から25単位に減少したため、5科目の削減を行った。当初の予定では、1年生前期の科目は、Human Anatomy and Physiology I、School Health、Sexual health & Sexuality Education I、Child Health、Health Science、School Safetyの6科目（6単位）である。後期は、Human Anatomy and Physiology II、Symbiosis with microorganisms and biological defense systems、Health and Nutrition、Hygiene and Public Health I、Child Illnessの5科目（5単位）であった。

Child Health、Health Science、School Safety、Symbiosis with microorganisms and biological defense systemsの日本語のドラフトが書き上げられた。

さらに、その後、TECの科目の単位が大きく変更されたため、これまでの作業を保留し、再構成する必要が生じた。すでに、小児保健、小児の疾病、学校安全、人体解剖生理学、微生物との共生と免疫、など日本語で草稿ができていたが、検討しなおすことになった。

健康教育、学校保健の基礎的な科目である、人体解剖生理学、栄養と免疫、小児の健康と疾病、学校保健・学校安全、思春期保健学、公衆衛生学（環境保健を含む）、メンタルヘルスは3単位の科目とする（合計21単位）。健康教育・ヘルスプロモーション論と学校保健研究法を2単位にする（合計4単位）。ファーストエイド、インクルーシブ教育はカリキュラムスタディに入れる。このような構想を考えている。

4. 学校保健用語集の制作

小学校教員養成課程の教科書の索引をもとに、1386語の専門的な用語の解説集を日本語で制作する作業を行った。まだ、草稿の段階で検討の余地があるので、2025年度には、各語を吟味して完成させ、英語に翻訳し、クメール語版を作成する。作業中の草案は、google driveに保存してある。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1tsWFYg0IpO2rM3n81_YasPyPFiUqeR2Y/edit?usp=sharing&ouid=

5. 学校保健の導入の効果に対する評価研究

2023 年の学生調査の分析は、進行中である。さらに、PTEC、BTEC とともに小学校課程 4 期生が入学しており、それぞれ 147 名、153 名で計 300 名の新入生がいる。2024 年の学校保健の授業は、後期に実施される予定なので、前後の比較調査の実施を企画している。これまでは 4 年生後期の授業だったが、今年から 1 年生後期に変更になったため、1 年生に対する評価が必要となった。同様に、教官インタビューの分析も進行中である。

TEC に学校保健の授業を導入した効果を評価するために、1 期生、2 期生の卒業生フォローアップ調査を TEC と協力して実施している。回答者は、PTEC は 283 人（1 期生 131 人、2 期生 152 人）、BTEC は 233 人（1 期生 127 人、2 期生 106 人）であった（2024 年 9 月 18 日）。このうち、勤務している小学校で保健の授業を実施したことがある者の割合は、PTEC の 1 期生 27.5%、2 期生 21.7%、BTEC の 1 期生 36.2%、2 期生 30.2%であった。PTEC の卒業生（24.4%）に比べて BTEC の卒業生（33.5%）のほうが、保健の授業を実施した経験者の割合が大きい。1 期生（31.8%）のほうが 2 期生（25.2%）に比べて、勤務年数の長さもあるのだろうが、保健の授業を行った経験者の割合がやや大きい。

また、勤務している小学校に保健室がある者の割合は、PTEC の 1 期生 22.9%、2 期生 20.4%、BTEC 1 期生 26.8%、2 期生 19.8%であった。平均 22.5%で、2 割程度の学校に保健室（あるいは保健スペース）が設置されていると推測される。

さらに、授業を行っている者が回答した受益者である小学生の推計は、8,303 人である。

なぜ大学間で差があるのか、どの程度保健の授業実施に大学での講義が効果をもたらしているのか、卒業生はどのような役割を学校保健で果たしているかなど、さらに詳しい現状を調査する必要がある。7 割の卒業生は保健の授業を行っていないため、その理由の解明のための調査とフォローアップ研修も課題である。

6. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信

2024 年度中には、2025 年度に開催される国際学会に演題を申し込んだ。ひとつは、国際社会学会（2025 年 7 月 7 日から 13 日、モロッコ開催）において、Gender differences in Mental Health and Well-being among Cambodian University Students と Association between Academic Performance and Mental Health and Well-being among Cambodian University Students である。もうひとつは、International Union for Health Promotion and Education(IUHPE、2025 年 5 月 12 日から 16 日、アブダビ開催）において、Religious Support and Psychological Well-Being of Cambodian University Students を一般のポスター発表で申し込み、A Call to Action from Asia for the Promotion and for Future co-innovation of Planetary Health in Schools and Communities のシンポジウムにおいて From the experience of implementing Planetary Health in Teacher Education Colleges in Cambodia という演題発表を登録した。これらの発表は、すべて採択されたので、2025 年度に発表を行う。

また、2024 年度から小学校教員養成課程の 1 年生を対象に学校保健の講義を実施するため、2024 年 11 月に PTEC で、12 月に BTEC で事前調査を行った。その単純集計の結果は、2025 年度に本プロジェクトがカンボジアの学校保健局に提出するレポートで報告する予定である。

7. 日本における学校保健研修

9 月 8 日から 9 月 15 日の期間（うち日本滞在期間は 9 日から 15 日）、東京学芸大学をはじめ、附属小金井小学校、附属国際中等学校、町田市立南中学校、座間市立相模中学校の訪問を含んだ日本研修を実施した。カンボジアの教員養成大学から 11 名（マネジメント・チーム 2 名、教官 9 名）が参加した。

参加者が、それぞれが事前に立てた研修の目的に沿って、最終日に成果を発表した。各教官のプレゼンテーションは以下のフォルダーにある。

https://drive.google.com/drive/folders/1t1x0KkE4ZQIODEUhhk_2h13aQfjG2ba

Chhom Kunthy 先生は、日本の清潔・衛生習慣について、Hong Sovann 先生は学校の物理的な安全環境と応急処置について、Lam Bunmakara 先生は子供のメンタルヘルスについて、Pall Chamroen 先生は栄養教育と養護教諭の役割について、Mao Veasna 先生は中学生の障害と特別支援教育について、Srey Khivsokhom 先生は健康教育における教員の役割について、Hour Khim 先生は保健室の教員（養護教諭）と保健室の役割について、Leng Rachna 先生は日本の食べ物と栄養教育について、San Sreyry 先生は学校保健教員による保健室運営と健康教育について、それぞれ学んだこと、感想を報告した。全ての先生が、これらの成果をカンボジアの学校保健で生かし、実践すると決意を述べていた。

オープニングセレモニー後の集合写真（1日目）



籠谷先生の小児保健の講義（2日目）



中学校の保健の授業参観



中学校での命の授業への参加



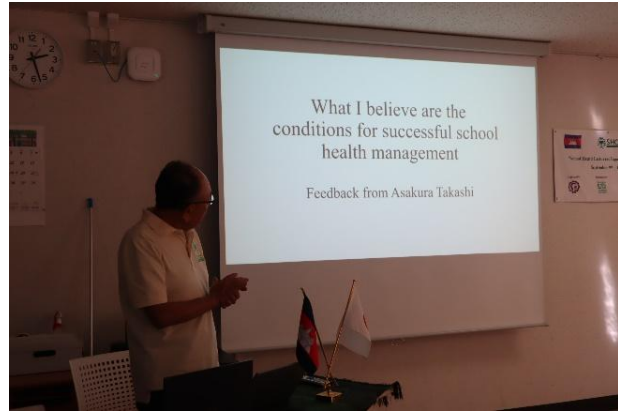
附属国際中等学校の保健室訪問



学長の終わりの挨拶

朝倉からのフィードバック

Chea Ratha



8. 東京学芸大学、カンボジア TEC 間で学生の短期交流（スタディツアー）

2023 年度のスタディツアーの公開報告会を 4 月 19 日にハイブリッドで実施した。また、スタディツアーにおける活動の様子はニュースレター 17 号に掲載している。

児童に手洗い指導を行うという学校保健分野で交流を行った BTEC の学生の感想を挙げておく。

- I think the activity that was prepared by TGU Students was really important for children to learn about taking care of themselves and let them know how to clean their hands properly.
- I think this program is good and gives me a lot of experience, also it makes me have a good collaboration with other regions.
- The program provides me with good experiences. I can have a good communication with Japanese students. Moreover, this program gives me an opportunity to learn about Japanese culture, and we can learn a lot from each other.
- I think that this activity was good for me to have an experience with Japanese students, especially kids in primary school have a chance to learn about how to clean the hands correctly.
- It's a good opportunity for me to exchange knowledge, get experience, and make communication.
- Easy to understand and well prepared. That was such a good time and I got new experience working with TGU Students.

2024 年度のスタディツアーを 2025 年 3 月 4 日から 13 日の期間で実施した。学芸大学からの参加学生は 9 名（1 年生 5 名、2 年生 2 名、3 年生 2 名）である。BTEC、PTEC とともに、運動教育、栄養教育に関する授業を TEC の学生と一緒に準備して、附属小学校で実施した。日本の学生の教材づくりが TEC の学生の参考になっている。逆に、TEC の学生の教職に対する熱意が日本の学生の刺激となっている。

BTEC の学生との交流



BTEC の附属小学校での授業に向けた打ち合わせ



栄養教育の準備



ラジオ体操の説明

PTEC の学生との交流



PTEC の附属小学校で協力して行った授業の様子



栄養教育の様子



日本のラジオ体操を教えている様子

スタディツアーで学生が何を感じ、学び、どのような成長を遂げたか、2025 年 4 月に報告会を開催して発表をする。また、交流したカンボジアの学生の感想も収集する。

9. HP や Newsletter による情報発信

カンボジア学校保健プロジェクトの HP を大学の国際課のサイトとリンクさせて公開した(<https://shcc.u-gakugei.ac.jp>)。

2024 年度は、ニュースレター17 号、18 号、19 号、20 号、特集号、21 号、22 号、23 号を発行した。これらのニュースレターは、東京学芸大学 HP のカンボジア学校保健プロジェクトのサイト (<https://shcc.u-gakugei.ac.jp/newsletter/>) で公開している。

10. 国際学校保健セミナーの実施

2024 年度はゲストスピーカーを招いて3 回のセミナーを開催した。

松田徳子氏（JICA 教育政策アドバイザー、カンボジア在住）を講師に迎えて「全ての子供たちが「読み書き計算」のできる世界を作りたい」というタイトルでセミナーを7 月30 日に開催した。セミナーの全体は <https://drive.google.com/drive/folders/1b7ZDjp5NPnDbOu9I5RDEtjWrMgJaOPvh> で視聴することができる。

東京学芸大学卒業生の永田栞奈（株式会社 KMT）を講師に迎えて「1 つの Tweet で未来を変える～大学での学びと進路選択について～」というタイトルでセミナーを7 月31 日に開催した。セミナーの全体は https://drive.google.com/drive/folders/1-4mDQ20SX_iz8sIMxj38M1_4DgE5A8_C で視聴することができる。

大路紘子氏（NOM POPOK 代表）を講師に迎えて「栄養は権利 お菓子と栄養教育でカンボジアの子供たちの未来を創る」というタイトルでセミナーを10 月29 日に開催した。このセミナーの記録は https://drive.google.com/file/d/1tP_OUgYE-kR27Y-xHILqPtQwVRzxP6u8/view?usp=sharing で視聴することができる。

11. KIZUNA の学校保健事業のサポート

6 月25 日から6 月28 日の期間、朝倉と増子で KIZUNA がコッコン州で行っている学校保健のモデル事業のモニタリングに参加した。また、SHCC の教官メンバーである Ms. Lok Solinda、Ms. Chhom Kuthy、Ms. San Sreyry の3 名も参加した。

SHCC のメンバーは、3 地域に分かれて中学校を担当し、紙芝居を使った保健の授業を参観し、それぞれ評価と助言を行った。

KIZUNA の第4 回アップグレードトレーニングの2 日目（12 月24 日）に、朝倉が講義を行った。どのようにして日本の学校保健、保健室が歴史的に作られていったのか。それぞれの時代の健康課題、疾病、災害等にに応じて作られていったことを説明した。カンボジアでも、現在のカンボジアの子供の健康課題にあった保健室を構想していくべきであることを伝えた。その資料は、

<https://drive.google.com/drive/folders/1bHhe7lDXus3YscNcFBzdhoulTvk5Iw?usp=sharing> で見ることができる。

上野が、KIZUNA の保健室マニュアル（草稿）を執筆した。

12. TEC の学校保健に関わる専門的な見地からのサポート

Health room の運営に関する講義を齋藤千景教授（埼玉大学）が TEC 教官の学校保健日本研修で行い、日本の保健室の変遷を参考に、カンボジアでの保健室の在り方をディスカッションする機会を設けた。

第19 回の学校保健研修（2024 年10 月16 日、17 日）では TEC の学校保健担当教官の研修に加えて、2 日目のみ PTEC 附属小学校の学校保健担当教官並びに管理職等も研修に加えて合同で実施した。TEC は MoEYS から附属学校の学校保健とりわけ保健室運営においてモデル校となるべく指導するよう強く要請されている。そこで本プロジェクトでは TEC の学校保健に関わる専門的サポートの一環として、TEC はどのように附属小学校と連携して児童の健康課題への対応と保健室運営を実践すればよいのか、合同研修の機会を提供した。ちなみに附属小学校の学校保健担当教員は、TEC の第1 期卒業生で優秀な成績の者が指名されているとのことで

ある。

13. 新しい教官の加入

PTEC と BTEC、それぞれの学長から計 4 名の推薦があり、面接を行ったのち、3 名の教官を新しく SHCC のメンバーとして迎えた。PTEC から 1 名 Ms. Chhay Bony (Home economy と英語が専門)、BTEC から 2 名 Ms. Sary Monika (生物が専門) と Ms. Keo Raksmei (化学が専門) である。

14. Social Emotional Competency Card Game の制作

教員の資質を考えさせるゲームとして、84 個の social emotional competency をデザインしたカードを制作した。Competency を英語とクメール語で併記した。デザインは、Social Compass に依頼した。2025 年度にカードを印刷し、配布する。

カードの表

コンピテンシー（裏）



15. カンボジア国王とカンボジア政府によるプロジェクトへの叙勲

3 月 3 日、カンボジアの教員養成大学における学校保健テキストの制作と学校保健研修の貢献がカンボジア政府によって認められ、SHCC を代表して朝倉と増子に勲章が授与された。



16. カンボジアオフィス

カンボジアオフィスは、以上の事業、特にカンボジア現地で行う事業と本邦学校保健研修において、円滑に進められるように尽力した。本プロジェクトは、日本側で教科書の執筆にあたる教授陣とカンボジア側における研修の企画運営、TEC との交渉にあたるカンボジアオフィスの働きの両輪で成り立っているが、とりわけカンボジアオフィスの貢献が大きい。

VI. 2024 年度の主な活動の総括と 2025 年度の課題

TEC への学校保健の導入という目標に関して、小学校課程への導入は軌道に乗り、中学校課程の保健コース以外の学生への講義の導入も実現した。教員研修は、順調に進んでおり、教官のコミットメントも十分である。

しかし、小学校課程 2 単位の教科書の改訂、中学校課程 1 単位の教科書のシラバスの作成と政府による認定など、2024 年度内に実施できなかった事業もある。2025 年内には完了する計画である。

一番大きな課題は、年度末の 3 月になって中学校課程の学校保健コースの教科書制作の計画に大幅な変更が迫られたことである。そのため、準備してきたことを、再検討せざるを得なくなった。予期せざる事業の遅れである。2025 年内には、科目の再構成を行い、シラバスを作成し、草稿が無駄にならないように調整していく。

事業評価のために行っている調査データの分析が、十分できていないことも課題である。TEC 側で講義対象の学年が 4 年から 1 年に変更となり、卒業まで知識や意欲を保持できるのか、懸念もある。卒業生を対象にしたフォローアップ研修やグレードアップ研修も企画していく必要がある。そのためには、TEC のみでなく附属学校をモデルとした研修のあり方も検討していく必要がある。

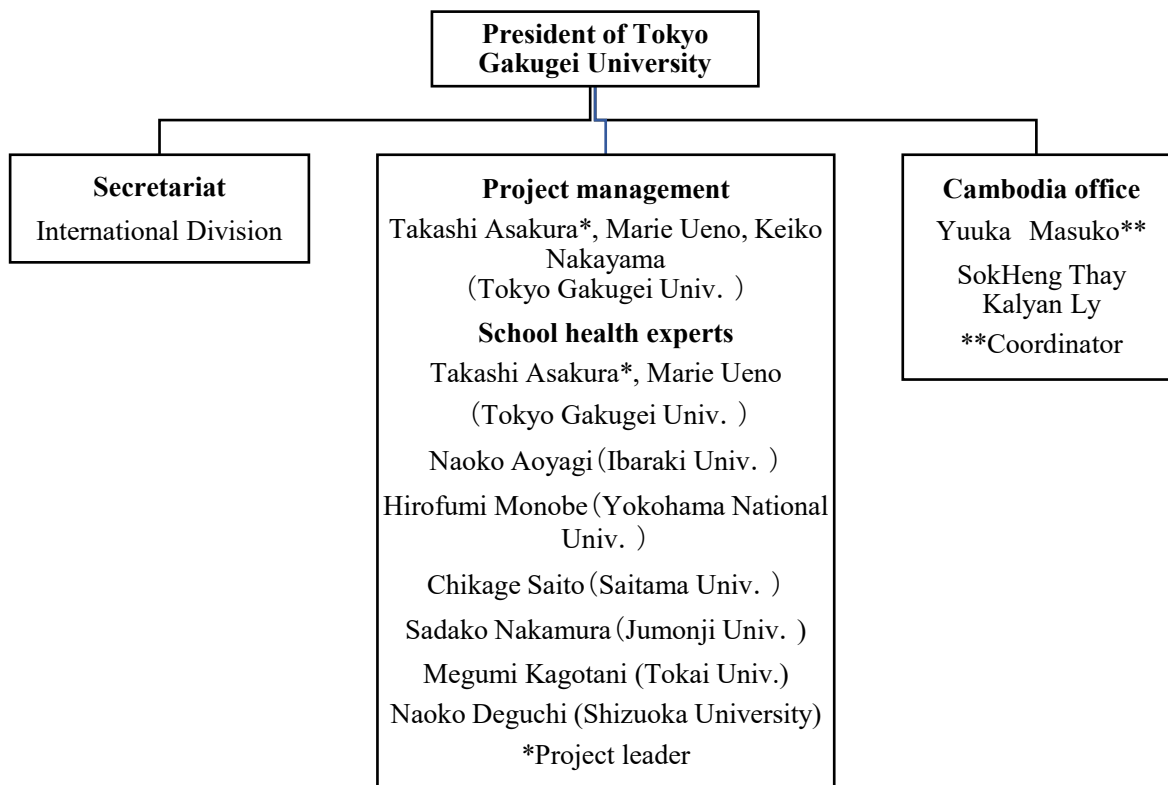
12 月に学芸大学としてのプロジェクトが終わり、新しい財団法人学校保健・エコヘルス財団で事業を引き継いでいく。そのための準備も 2025 年に進めていく。

VII. 2025 年事業の主な計画

1. 小学校課程用の教科書の第 2 版を制作する。
2. 中学校課程（学校保健コース以外）の 1 単位用の教科書を、シラバスを加えて学校保健局に提出し、校閲を経て教育省の承認を受け、ハンドオーバーする。ハンドオーバーに際しては、教育大臣等を招いてセレモニーを行う。
政府認定の教科書を印刷・製本し、TEC の 1 年生に配布する。
3. 中学校課程学校保健コースの専門科目を再構成して、教科書の草稿（日本語版）を作成し、編集したのち英語翻訳を行う。順次、クメール語翻訳を行う。2 科目程度はクメール語と英語を載せた教科書を制作し、印刷・製本する。
4. 学校保健用語解説集の編集作業と英語翻訳の作業
5. 日本における学校保健研修の実施
6. 学校保健の導入の効果に対する評価研究（学生調査と教官インタビューの分析、卒業生のフォローアップ調査など）
7. TEC の学校保健に関わる専門的な見地からのサポート（Health room の運営、学校保健における TEC の教官と附属学校教官の連携など）
8. TEC への昇格が予定されているカンダール州とコンポン・チャム州の教員養成校の実情調査、その他の州の教員養成校における学校保健の授業の実情調査
9. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信
10. HP や Newsletter の発行、TEC の Health room を活用して健康情報を発信
11. 国際学校保健セミナーを継続し、カンボジアをはじめとした途上国の学校保健を学生と教員が共に学ぶ機会づくり
12. KIZUNA の学校保健事業を専門的な見地からサポート

VIII. プロジェクトの組織図

2024 年度の事業を実施したプロジェクトメンバーの組織図である。



IX. プロジェクトの決算報告

別紙収支簿（資料）のとおり。